

プロジェクトタイトル	ソーシャルメディア時代における観光情報発信機能としての「道の駅」の在り方（ニセコ町）
プロジェクト代表者	大湊亮輔

1. プロジェクトの目的・概要

本学と 2023 年より包括連携協定を締結しているニセコ町では、強力な観光集客コンテンツの 1 つに道の駅がある。過去実施した NTT 東日本社との共同研究「ニセコ町訪問客の人流解析」においても半数ほどの観光客が道の駅を訪れていることが明らかになっている。

この道の駅は、施設の老朽化や冬季利用可能スペースが限定的などを改善し機能向上を高めるため 2025 年にむけて段階的な改装を予定している。

本来道の駅は「休憩機能」「地域連携機能」「情報発信機能」の 3 つの主要機能を軸に加えて、近年「防災機能」や「地域産業振興」が強く意識されるようになっており、ニセコ町でも JR が将来的に廃止されることを踏まえ、ニセコ町内への経済波及効果や情報発信機能の強化が一層求められる。

コロナ禍も終わりインバウンドが再び戻ってきつつあるニセコ町において、町内産業界との連携を深めていくためにも、今後のニセコ町道の駅の在り方、特にソーシャルメディアなどオンライン情報発信主流の時代において道の駅が担うべき情報発信機能がどうあるべきか、そして適切な情報発信から地域産業振興にどのように繋げていくことが出来るか、地域課題解決型の研究として、すでに設置しているカメラデータの分析や観光客のアンケート調査などを実施する。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトにおいて、設定した仮説を立証すべく調査方法として、(1)道の駅に設置している本学資産のカメラを活用し、情報発信場所の動員調査、(2)道の駅利用者に対して現地インタビュー・アンケート調査（アンケート項目：道の駅情報発信箇所の利用有無、利用した場合の満足度、他情報収集方法の利用状況、観光客属性、道の駅利用時間帯など詳細なプロフィール調査、他地域における情報発信の良い体験事例ヒアリング）を設定、10月までのニセコ町観光におけるグリーンシーズン繁忙期において、ニセコ高校の在学生にも協力を仰ぎ、アンケート調査を実施した。またニセコ道の駅にはカメラを設置し、どのように観光客が滞在、行動しているか、その動員数を定量的に計測した。

アンケート調査、カメラデータを突合し、観光客が道の駅の情報発信において真に求めているものを明確にした。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

100名を超えたアンケート調査、カメラデータを複合して分析したものは、24年3月中旬にニセコ町へ提案予定となっている。当初の仮説より、道の駅における情報発信は観光客にとって重要ではないことがわかった一方で、やはり地域でしか手に入らない情報を求めていることも明確になった。

また同時期に、NTT東日本社との共同研究案件も進み、本研究結果を幫助する内容となったことから、これらの結果をまとめ25年以降に実施されるニセコ道の駅改装方針の一部として盛り込んでいただけるよう提案していく。